

## ～「相談は誰のためにするのですか」



五十嵐 仁 (いからし ひとし)

(株)インタフェース代表取締役

1958年、樺戸郡新十津川町生まれ。1980年東北大学文学部（心理学）卒業、同年(株)リクルート入社。その後東京と札幌で人材開発関係の会社2社を経て、1999年(株)インタフェース設立、代表取締役。企業・団体のマネジメント研修トレーナー、人事組織コンサルティングを専門とする。

前は、「相談しない」、「相談されない」人や職場には三つの問題があると述べました。今回は、職場で「相談」をもっと活用するにはどうするかを考えます。

「相談する」「相談される」ことで、一人で悩んだり、考えたりしているよりもっと良い回答、解決策、アイデアを得て、いい仕事の進め方をできるようになるために、考えておくべき三つのことがあります。

一つ目は「相談は誰のためにするのか」、二つ目は「相談は何のためにするのか」、三つ目は「相談はどのようにしたらいいのか」です。今回は、一つ目の「相談は誰のためにするのか」について考えていきます。

ところで、「相談」と「報告」の違いは何だと思えますか。「相談」は自分が困ったことや、意見を聞きたいことを伝える、「報告」は自分の仕事の結果を相手（多くは上司）に伝えることです。

「報告」を、まったくしないとうなりますか。ふつうは、叱られます。あるいは、困ったやつだと思われまます。つまり、「報告」はしなければならぬことなのです。言い換えると「義務」と言えます。それに対して、「相談」は、まったくしないからといって怒られることはありません。いちいち相談せずに仕事が進んでいけば、何も文句を言われることはありません。つまり「相談」は自らが、するかしないか決めることなのです。

私が行う「報連相研修」で、『「相談」って何ですか。社会人になったばかりの新人に分かりやすく一言で説明するとしたら、どう伝えますか』と受講者である管理者やリーダーに問いかけます。「相談」に関しては、困ったことを話す、人から意見を貰う、自分の考えがいかどうか判断してもらい、等の答えが出てきます。

以上の回答から考えると、相談しない人は「困っていない人」「人から意見を貰おうと思わない人」「自分の考えでいいと思う人」、と言えます。つまり仕事について自分の考えや判断のモノサシのままでも何も問題がないと感じている人です。

それに対して、相談する人は「困っている人」「人から意見を貰おうと思う人」「自分の考えだけでは十分ではないと思う人」、つまり自分一人ではなく、他の人の知恵を借りようとする人です。

この「相談しない人」と「相談する人」とを比べてどう感じますか。「相談をする人」の方が今よりいい仕事をしようとする人と言えませんか。新人はもとより、中堅職員、管理者、幹部であろうと、いい仕事をするためには自分一人で考えたり、自分の知識、経験だけでいつも十分ということはありません。

「相談」は、自分一人の頭を使って仕事をするのではなく、活用できる複数の人（他者）の頭を使っている仕事することなのです。それは自分のためにすることであり、自分の仕事のお客様のためでもあります。相談によって仕事が進み、より良い仕事できて、結果として自分の仕事の貢献対象（お客様、次工程、他部署）に役立つことができるのです。

「相談」は相談する人が主人公（主役）です。相談を受ける人は、支援者（脇役）といえます。しかし、そうなるためには、相談できる関係があること、相談者（相談する人）が、何のために相談するのかという明確な目的を持っていることが必要です。

今回は、「相談」は何のためにするのか？相談の目的について考えていきます。